

思いやりの目

直方市立中泉小学校六年 三浦 優

先生から人権についての話を聞き、「人権とは何だろう。」と考えたとき、すぐには思いうかばず、とても、難しい言葉のように感じました。そこで自分なりに調べてみることにしました。すると、いじめやぎゃくたい、差別といった、身近なところで見つけていることも、人権問題であるということが分かりました。そして、私の一番身近なところにも差別問題があると分かりました。

それは、障がいをもつ人についてです。私には、「ダウン症」という障がいをもっている人がいます。いとは、小さいころから仲良しで、よく遊んでいました。一緒に遊んでいると、いとはダウン症だということを忘れてしまいます。でも、とても悲しいことがあります。それは、一緒にでかけたときに、他の人からの視線が気になることです。仲のいいいとは、みんなからじろじろとみられていると、とても悲しい気持ちになります。

私のいとは人より少し覚えるのがおそいし、運動も苦手だけど、習字やフラダンスを習っていて、いろいろなことに挑戦しています。そんないとは、私は尊敬しているし、みんなに自慢できる存在です。いとは見ていると、私も負けないように頑張ろうと思えてきます。

障がいがある人は、何もできない。ふつうの人とはちがう。と決めつけてしまう人がいます。でも、できないことは、一緒にチャレンジしたら良いと思います。そして、ただじろじろと見るのではなく、「何かできることはないかな?」と、思いやり

をもった目で見ることができるような世の中になってほしいと思います。そのため
は、相手の立場になって話を聞いたり、考えたりすることを自分自身もこれからも
大切にしていきたいです。